

ガンバレ若者！

ボランティアとは「人の笑顔」「心の笑顔」



アジアアフリカ環境協力センター(アセック)
理事長 瓜谷 幸孝

はじめに

みなさんこんにちは。アセックの瓜谷です。この度はモンゴルに対する支援として数多くの衣類、石鹸、スポーツ用品等の物資を送付していただき本当にありがとうございました。この善意の物資はすでにモンゴルに届けられ、モンゴル国立子供芸術センターとモンゴル赤十字を通じて支援を必要としている人々に配られることとなります。皆様が方からの物資支援のご協力を賜りましたことを、講演に先立ち心よりお礼申し上げます。

生きる目標

国際交流ボランティア組織「アジア・アフリカ環境協力センター(アセック)」を設立して今年で7年目となり、アフリカのザイールをはじめモンゴル、中国とアジア・アフリカ地域で支援を必要としている国や団体に対し、これまでで合計8,000トンの支援物資を送り出してきました。

また、モンゴルに対しては物資の支援にあわせ、ボランティアツアーを始めてはや9年目を迎えました。

モンゴルでは、ソ連崩壊が原因による経済の

混乱から失業者があふれ、その結果親に捨てられ孤児となった子供達が急増しました。経済が落ち着いてきた現在でも、マンホールチルドレンと呼ばれマンホールの中で暮らす子どもたちが約3,000~4,000人いると言われています。モンゴル赤十字では、そのうちの60名を施設に収容し衣食住の確保と教育を行っています。マンホールチルドレンに対してはさまざまな支援が行われていますが、十分に手が回っていないのが現状です。赤十字としても、現在の60名からひとりでも多くの子供達が収容できるように取り組んでいますが、実際は現在の60名の子供達を収容している運営でもかなり厳しい状態になっており、早急に支援体制を整える必要があると言えます。

このようなモンゴルの状況に対応して、アセックでは支援物資の送付に加えてマンホールチルドレンに対する「里親支援制度」を設立し、日本での賛同者を募りモンゴル赤十字への支援を続けています。現在では里親も60名以上に増え、今年の6月には、子供達のリーダーとして頑張っている少女、オドバイヤールさん(13歳)を日本に招待し、日本の文化に触れてもらうとともに、兵庫県下の小・中学校や自治会などの講演会を通じて日本の子供達とも交流を行いました。ホームステイさせていただいた家庭で、プレゼントされた浴衣を着て、花火をしたことなど「家族団らん、暖かい家庭」ということが

一番印象に残ったようです。また日本滞在中、モンゴルからの留学生が彼女のために通訳として駆けつけてくれました。彼女は「いつか必ず日本の里親に会える」という強い目的・信念を持っていましたが、今回それが実現し日本を訪れたことにより、新しい目標ができたと言っていました。それは、彼女のために駆けつけてくれた留学生の姿に刺激を受けたようで、帰国してからは日本語を勉強し立派な通訳になりたい、そして再び日本に来たいというものでした。オドバイヤールさんの「オド」はモンゴル語で「星」を、「バイヤール」は「輝き」を意味します。この名のとおりキラキラと光り輝き、周りの人々に“明かり”をいっぱい提供してくれました。

「草原の人」と「手の平の人」

マンホールチルドレンと呼ばれる子供達は、ひたたくりや置き引き、靴磨きや観光客目当てに大道芸人をやって生活費を稼いでいます。不思議なことに彼らの中には自殺をする子供はひとりもいません。みんな生きることに一生懸命なのです。それに目的や目標がはっきりしているので、みんなキラキラした輝く目をしていきます。今の日本でどれだけの子供が目をキラキラ輝かしているのでしょうか、反対にどれだけ多くの子供達が心を悩ませ自殺しているのでしょうか、私はモンゴルに対する支援を通じて、日本の子供達にも広い世界を知ってもらい、キラキラした目を取り戻してもらいたいと考えています。

モンゴルの遊牧民のことわざに、真の友達をたくさん持っている人のことを「草原の人」と呼び、逆の人のことを「手の平の人」というのがあります。物事を点と線で見ること慣れてしまった私たちとは異なる

り、広大な自然とともに生きるモンゴルの子供は、広角的視野や野性味のある人間性にあふれています。広い草原は、いかなる旅人をも静かに優しく受け入れます。人々が動物達とともに生活し、希望、夢、愛を育みます。すべてが優しい目をしており、ここには日本人が失ったものがあります。「自然を大事にする人々」と「物質文明を大事だと思う人」、「草原の人」と「手の平の人」というように、モンゴルと日本の子供の生き方の違いがはっきりと出てきているのではないのでしょうか。

私と母を救ったひと声

阪神大震災の際には、私自身も倒壊した家屋の下で約2時間生き埋めになっていました。地震が起こった瞬間に、いったいどのようにして一瞬に移動したのかはわかりませんが、隣の部屋で眠っている82歳の母親の上に覆い被さっていました。救助された後で分かったのですが、私は肋骨が3本骨折し足も5針縫う怪我をしていましたが、私が上に被さったことにより、母親は直接的な怪我を受けずに済んだようです。

自力で外に出るまでの2時間、崩れ落ちた家屋に挟まれているうちに、私は土砂を吸い込み次第に呼吸ができなくなり、どんどんと意識がうすれてきました。もうだめだとあきらめた時「私の命と引き替えに母親を救って下さい」と



祈ったのですが、そのとき向かいのおばさんの「瓜谷さん大丈夫かー」のひと声が聞こえ、そのひと声で「よっしゃ」という気持ちが沸き、この世に舞い戻ってきました。あの向かいのおばさんのひと声がなかったら、あきらめてしまって私も母親も死んでしまっていたに違いありません。本当に困ったときに声をかけることの大切さを身にしみて知りました。

焼け野原は宝の山

震災の日、助け出されたことでしばらく放心状態だったのですが、翌日、事務所に行くと、日本全国・海外からの励ましと安否を気遣うファックスでいっぱいだったのです。この様子を見て私は体中の血液が音を立てて流れていくような気がしました。

私は阪神大震災で家財等、形のあるものをすべてなくしましたが、数多くの形のないものを得ました。日本全国からは延べ450人の方がボランティアとしてアセックに駆けつけてくれ、海外からは励ましの手紙やファックスが次々と届いたからです。

私は自分が得ることができた形のない財産を分け与えるつもりで、ボランティアとして駆けつけてくれた学生さんに対して「神戸の焼け野原は宝の山や！思う存分もって帰れ！」と書いていました。宝物とは何か、それは3つあると

思います。ひとつは自分の力で自分の判断で動くその「行動力」、二つ目はいろいろな人との「出逢い」、三つ目にフリではなく「心で接する」ということです。不思議なもので、この宝は誰かに分けることにより増えるのです。私がこうして皆さんと出逢いお話をすることによって、私の宝は皆さんに分けられましたしその一方で私の中で増えているのです。私が分けることができた宝はほんの少しかもしれませんが、どうか皆さんも他の人に宝を分けることにより、この目に見えない形のない財産、宝をどんどん増やして行って下さい。

真実の愛「元気メール」

阪神大震災で被災された方のうち、仮設住宅から復興住宅へ変わることができたにもかかわらず、身寄りがなく話す相手もないことによりどんどん自分の殻にこもってしまい、ついには孤独死・自殺に至るケースが増えています。アセックでは震災直後から、このように天涯孤独で身よりのないお年寄りに「元気メール」と称した手紙を配っています。往復ハガキで「元気ですか？」から始まり近況を連絡しあうもので、はじめてから4年半ですでに5万通に達しました。4年半の間ずっと文通している人もいます。

子供達の中には親にはいえない悩みをお年寄りに打ち明けていることもあり、ある中2の子供からは「おじいちゃん、もう学校行きたくない、野球もやめる。」と相談があったそうです。そのおじいちゃんはもともと甲子園球児であり彼に対して「ガンバレ、君には野球があるやないか。イチローになって大リーグを目指せ。」と反対に励まし続けた結果、目的意識を持って学校に通いだしたそうで、今では家族ぐるみでつきあっているということでした。



ある女の子は高校受験の発表日に、自分の合格を自分の家族より先に真っ先に仮設のおばあちゃんに連絡したそうです。

ある中学校のクラスでは、既に京都、大阪とコースが決まっている修学旅行で「神戸の元気メールのおばあちゃんに逢いたい」とクラス全員がストライキを起こしたそうです。見かねた先生が下見に行く際に、クラスの代表として足を延ばし仮設住宅へ励ましに来たのですが、お年寄り達に逆に励まされ、結局、本当に修学旅行のコースが変更になり、クラス全員が仮設を訪れ「　　さんのおばあちゃんはどこ」「くんはどこにおるんや」というように大交流会になったそうです。

これらが「真実の愛」じゃないのでしょうか？今の日本の世の中は、家族のフリ、友だちのフリ、仲間のフリが多すぎると思います。これから世間に出ていく子供達や、まだ若い世代の人には、「真の出会い」をして「フリではない真の生き方」をして欲しいと思っています。

一つの目標

ボランティアの活動とは話がそれるのですが、私はカッターと呼ばれる6人乗りの救命用手漕ぎボートのレースに、「よっしゃ」というチーム名で参加しています。毎年、5月の連休の時に開催される神戸港カッターレースに参加しており、昨年の第21回神戸港カッターレースでは、参加5年目になる震災時のボランティアのメンバーで編成したチームで56チーム中、堂々の準優勝を果たしました。個々人の技術も当然必要ですが、何よりチームワーク、全員の呼吸が一つになりカイが同時に水をつかむ事が必要です。毎年、円山川で合宿を行っており、今年も10月2、3日と行っていますので、興味のある方はぜひ参加してみてください。参加者全員がカッターをやりたい、一つの目標に向かってガンバリたいという素直な気持ちで取り組んで

おり、中途半端な、不純な人間はいません。すでに8組のカップルが結婚しました。本当の出会い、良い出逢いということであれば、このような活動を通じても人のつながりは広がって本当の友達ができるものです。

ボランティアとは「人の笑顔」「心の笑顔」

仕事の他にボランティアやカッターレースといろいろなことをやっていると、多くの人ば「忙しいのになぜそこまでするの」という人がほとんどです。ボランティアを始めた頃は、怪しい宗教団体や悪徳商法に間違えられたこともあり苦労しましたが、ここ最近、特に阪神大震災以降は周囲の人も協力的になってきたと思います。

私にとってボランティアとは「人の笑顔」「心の笑顔」であり、他人に対して何かをしてあげる、やってあげるではないのです。やってて自分も楽しい、人に夢を与える、それがボランティアであり私にとっての最高の道楽なのです。

ガンバレ若者！

私は30歳で貿易関係を行う有限会社「ワールドエース」を設立しました。それまでは貿易関係の会社に勤めており、その間に船に乗ったり、倉庫番もしたり、経理、営業以外の仕事はほとんど経験したと思います。私はもともと30歳で独立し60歳でリタイアするという目標を持っていましたので、規模は小さいもののアジア・アフリカ向けの税関の手続きを行う今の会社を設立したのです。

今までには様々な困難がありましたが、「信号は青しかない」という信念のもとイノシシのごとくまっすぐ突き進んできました。もちろん周りの人の助けがあつてのことです。どんな人も壁にぶち当たりますし船も嵐に遭遇します

が、そんなときの格言として「風に向け、波立つ」という言葉があります。船は波を横から、また後ろから受けると転覆してしまいます。波に向けまっすぐ突き進むしかないのです。つまり逃げてはダメなんです。逆境から逃げない、ファイティングポーズを取りつづけなければならないのです。

本日は「ガンバレ若者！」というテーマで講演するように依頼がありました。実際にはボランティアの話が中心で、皆さんの中には意外に感じた方もいるかと思います。しかし、ボランティアでも仕事でも普段の人間関係でも、本質的なことはすべて同じであると思います。「良い出逢い」が「真の友達」を作り自分が苦況に立ったときの支えになってくれる。「真の友達」が新しい「良い出逢い」を生みだし、次の「真の友達」に広がって行くのです。そして「フリでない真の生き方」できるのだと思います。それがまさにモンゴルで言うところの「草原の人」なのではないでしょうか。

出逢いは必ず人を成長させてくれるはずで、良い意味で開き直り積極的にいろいろな場に出て行って、視野を広げて欲しいと思います。まさに「ガンバレ若者！」です。頑張ってください。

お知らせ・・・[アセックモンゴル語教室]

モンゴルからの留学生の方々が講師となってモンゴル語教室を開講しています。初心者コース、中級者コースとあり初心者コースであればどなたでも参加できます。我こそはと思われる方は奮って参加下さい。

以上

うりたに ゆきたか
瓜谷 幸孝プロフィール

経 歴

- 1947年 神戸市に生まれる。
- 1977年 有限会社ワールドエース社を設立。
- 1993年 国際交流ボランティア組織「アジアアフリカ環境協力センター（アセック）」を設立。
- 1995年 阪神・淡路大震災の被災者に対し「元気メール」活動を開始。
相次ぐ仮設住宅での孤独死を避けるため、被災されたお年寄りに日本全国・海外から寄せられた便り（元気）を配り続ける。
その数は4年半で5万通に達した。
- 1998年 モンゴルのマンホールチルドレンのための里親支援制度を始める。
- 1999年 不登校の子供達の視野を広めようと「モンゴル語」教室を開講。
現在にいたる

主なACECの海外支援活動

ザイール(1990～)、中国(1991～)、モンゴル(1992～)、ケニア、インド(1993～)、ネパール(1994～)、ロシア、タイ(1995～)、コロンビア、トルコ(1999)、ニカラグア、ベトナム、バングラディシュの各国に、計8,000トンの支援物資を送る

- 1992年 アフリカ・ザイール政府より、文化功労賞を受賞。
- 1994年 中国福利基金会より、国際協力賞を受賞。
- 1995年 タイ政府より、国際支援協力賞を受賞。
- 1997年 モンゴル赤十字より、モンゴル十字勲章を受章。
- 1998年 モンゴル大統領より、平和友好勲章を受章。